



# かみまち新庁舎だより

令和6年9月24日 web 発行

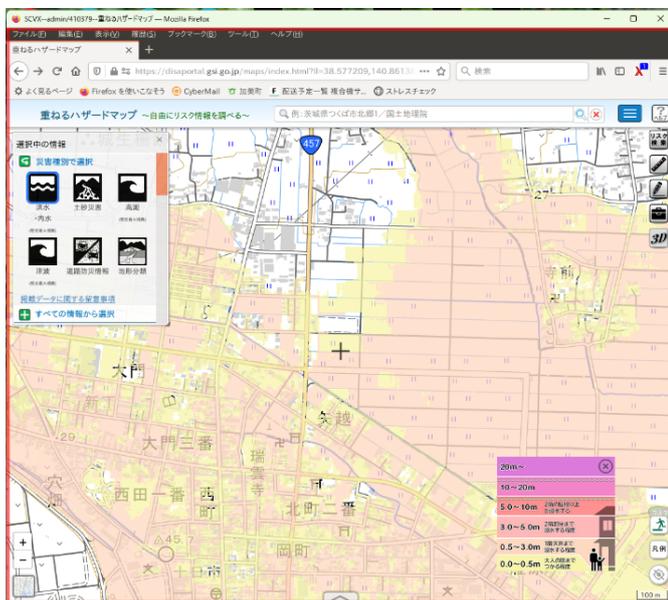
## ごあいさつ

こんにちは、加美町役場新庁舎整備室です。

現在、公募型プロポーザルにより設計者の選定を進めています。

今回は、敷地の浸水想定や大雨対策についてお知らせいたします。分かりにくい言葉もあるかもしれませんが、ぜひ最後までお読みください。

## ハザードマップによる浸水想定について



出典：国土地理院 重ねるハザードマップ

国土交通省や国土地理院では、洪水による土地の浸水深をシミュレーションにより想定し、ハザードマップとしてホームページで公開しています。

左の図は、国土地理院のホームページで公開されている「重ねるハザードマップ」で、新庁舎建設地である矢越付近を表示したものとなります。

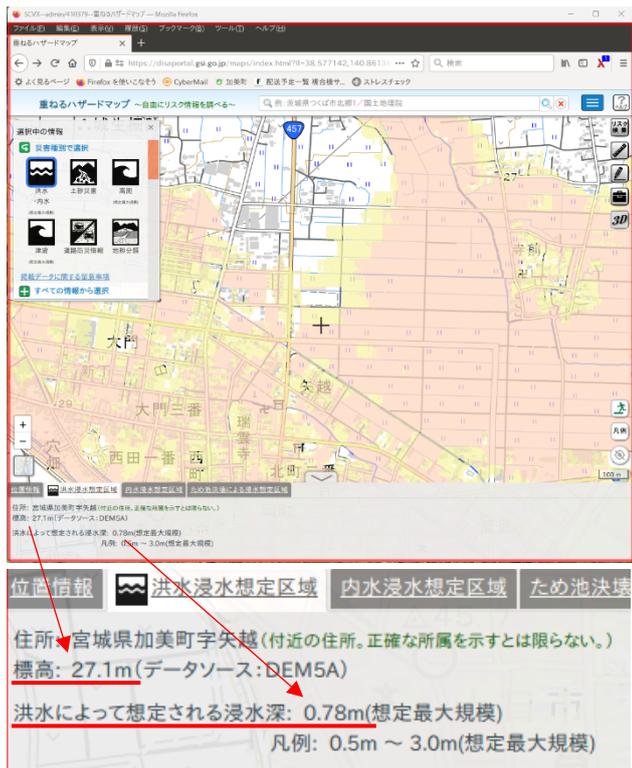
想定では、鳴瀬川流域の最大規模の大雨として、48時間での総雨量566.1mmの降雨により、田川や鳴瀬川が増水し、

堤防が破堤し氾濫した場合の浸水深がシミュレーションされています。

これらのハザードマップを見ますと、建設地の想定浸水深は、北側が0～0.5m（黄色）、南側が0.5m～3m（薄いオレンジ色）に着色されていることから、大雨や洪水の被害を受けやすいのでは、とのご心配の声を多く頂いております。

浸水想定についてのより詳しい内容と、大雨対策の考え方を説明いたします。

## ハザードマップの詳しい内容について



出典：国土地理院 重ねるハザードマップ

ハザードマップに示された標高は、造成前の水田の標高が元になっており、実際には盛土が行われています。建物の建設位置については、標高 28.8m 程度まで盛土する計画であり、浸水に対する安全性は確保されていると判断しております。

建設地の南側が 0.5m～3m (薄いオレンジ色) に着色されていること、ハザードマップの解説の説明などから、1 階の全てが浸水するほどの洪水に見舞われるのではないかと、いった印象があるかもしれません。

ハザードマップ下部の凡例をよく見ると、地図上の + マークの位置の、より詳しい情報が記載されていることがわかります。

+ マークの位置は、標高 27.1m とされており、想定最大規模の洪水では、浸水深 0.78m と想定されています。よって、標高に浸水深を加えると、標高 27.9m 程度まで水位が到達するものと読み取ることができます。

## 敷地の大雨対策について



新庁舎の敷地には、雨水を一時的に貯めて、下流域の洪水被害の発生を防止・軽減するため、防災調整池を設ける必要があります。そこで、駐車場の一部を利用するなどの方法によって、敷地内に約 1 2 0 0 m<sup>3</sup> の貯水容量を確保する計画としております。

なお、新庁舎の敷地の雨水排水については、南側の町道を横断し、さらに南側の北江用水路に排水される計画となっています。(上記写真の赤線で示したところに、町道の整備事業にあわせて、既に排水路が整備されています。)



お問い合わせ先

〒981-4292

宮城県加美郡加美町字西田三番 5 番地

電話 0229-63-5255

加美町役場 新庁舎整備室

FAX 0229-63-3398

HPはこちら